

お墓の悩み相談室

～納骨編～



お骨をお墓などに埋蔵することを意味する「納骨」。大切な人を失い、悲しみの中にある家族にとっては、気持ちを整理するための一つの区切りとなる大切な行事です。そこで、納骨する時期やポイント、手順について簡単に解説していきます。

納骨の時期

仏教・神道・キリスト教でも納骨をこの日に行わなくてはならないという決まりはありません。お墓に納骨する気持ちの整理がついたら、参列されるみなさまと相談して日時を決めましょう。



※ 一般的には、四十九日や一周忌法要にあわせて納骨する方が多いようです。

ポイント①

お墓への彫刻工事は1ヵ月程度の日数を要します。納骨前に彫刻を済ませたいお客様は納骨の日時を決める前に、工事の納期をご確認ください。

納期
1ヵ月

詳しくは12頁をご参照ください。

ポイント②

納骨の当日は、納骨担当者がお骨を納めるお手伝いをします。法律上の手続きもあるため、予約(10日前まで)と事前手続きが必要です。

※ 火葬(改葬)許可証は手続きの際、必ずご提出ください。不備の場合は納骨できません。



ポイント③

冬期間はお墓が大変滑りやすく危険なため、お勧めしません。完全に雪が解け、暖かな気候になる6月頃の実施をお勧めしています。



※ 納骨までの間、お骨をお預かりするサービスがあります。

ポイント④

真駒内滝野霊園では法要・納骨・会食を一貫して執り行えます。僧侶手配の代行も承っていますので、初めてのことで不安な方も安心してお任せください。

詳しくは7・18・19頁をご参照ください。



納骨のながれ (仏式の場合の一例)

1 「墓地、埋葬等に関する法律」第14条により、火葬(改葬)許可証がない場合は納骨できませんので、必ず事前に手続きをお済ませください(6頁参照)。



2 ご予約された時間の5分前までにお墓へ集合してください。
※ ご先祖を供養する大切な儀式です。除雪や掃除はみなさまで事前に済ませることをお勧めします。
※ 園内の移動はお客様ご自身でお願いします。



3 納骨担当者が墓石を動かし、カポートへお骨を納めるお手伝いをします。
※ お骨を大地にそのまま納骨する方法・さらしの袋で納骨する方法・骨つぼのまま納骨する方法があります。お墓の形、生まれ育った地域の慣習で異なるため、納骨の方法は事前にご相談ください。
※ お客様からの指定がなければ慣習に従い、大地にそのまま納骨します。
※ 納骨方法に制限がある区画(RGⅡ型2号～・桜の杜Ⅱ型・さくらガーデンⅡ型の有期限制度利用者)は骨つぼまたは霊園管理者が指定する納骨袋で埋蔵してください。



4 供花・供物を飾り、線香・ローソクに火を灯し、僧侶の読経が始まります。
※ 僧侶を手配しない場合や無宗教の場合は、みなさまで合掌やお祈りをしてください。



5 僧侶の読経が終わったら、僧侶へお布施をお渡しください。
※ お布施の目安は7頁をご参照ください。



6 供物や飲物を放置すると、野生動物が食い散らかし、お墓を汚す恐れがあるため、お参り後は必ずお持帰りください。



7 骨箱・骨つぼ・白木の位牌^{※1}は真駒内滝野霊園がお焚き上げ^{※2}します。
※1) 白木の位牌とは、一般的に本位牌を用意するまでの仮の位牌のことをいいます。
※2) 焼却炉で対応できないものは供養の後、条例などに沿った処置を行います。



Q 納骨の際、服装はどうしたら良いのでしょうか?当日、着替える場所はありますか?

A 納骨は遺族・身内だけで行われることが多いため、ごく内輪であれば喪服ではなく地味な服装で参列する方が多いようです。法事と同じ日に実施する場合は、法事に準じた服装で参列する方が多いようです。決まりはありませんので、みなさまで話し合ってお参りください。着替えは管理事務所更衣室とコインロッカーがありますので、ご利用ください。



Q 納骨にはどのような方法がありますか?

A 東京など関東地域は骨つぼのまま納骨するのが一般的なようですが、関西、東海地区や札幌市近郊においては、骨つぼからお骨を出して大地に還すのが一般的です。その際に、お骨をさらしの袋に移し替えて、納骨する方法があります。
※ さらしの袋はお客様がご用意ください。管理事務所売店では、さらしの袋を1枚1,000円で販売しています。